

## 介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 川崎医療生活協同組合

研修事業の名称 川崎医療生活協同組合 介護職員初任者研修

1 職務の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスと理解	2 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修課程全体の構成と各研修項目の関連性をイメージ出来る様にします。また、学習内容を体系的に整理して知識を効率的・効果的に学習できる様な素地形成を促します。</li> <li>・介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか介護保険サービス（居室・施設）とそれ以外（障害者（児）サービス等）について理解します。</li> </ul>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解します。実際のサービス提供現場の具体的なイメージを持って各科目学習に臨めるよう、講師による講義の他に、様々な現場についての視聴覚教材を用いて理解を深めます。</li> <li>・ケアプランに始まるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ、他職種との連携、地域社会資源との連携等、介護サービス提供についてのイメージを理解します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DVDを鑑賞し、そのあとグループディスカッションを行い、「介護職の仕事内容や働く現場」を出来る限り理解させます。</li> </ul> <p>※ 備品：DVD、DVDプレイヤー・プロジェクター</p>
合計	6	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	6 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、やっ てはいけない行動例を理解します。</li> <li>・人権と尊厳の保持（個人としての尊重、権利擁護《アドボカシー》、 エンパワーメントの視点、「役割」の実感、尊厳のある暮らし、利用 者のプライバシー保護）について、具体的な事例を示しながら理解を 深めます。</li> <li>・介護分野における ICF について具体的な事例を示しながら理解を深 めます。</li> <li>・QOL の考え方、生活の質について具体的な事例を示しながら理解を 深めます。</li> <li>・ノーマライゼーションの考え方について具体的な事例を示しながら 理解を深めます。</li> <li>・虐待防止、身体拘束禁止（身体拘束禁止・高齢者虐待防止法・高齢 者の擁護者支援）について具体的な事例を示しながら理解を深めま す。</li> <li>・個人の権利を守る制度の概要（個人情報保護法・成年後見制度・日 常生活支援事業・生活保護法）について具体的な事例を示しながら理 解を深めます。</li> <li>・利用者の尊厳を著しく傷付ける言動とその理由について考えさせる ことで、「尊厳」という概念に対する気付きを促します。</li> <li>・虐待を受けている高齢者の具体的な事例を示し、対応方法など高齢者 虐待に対する理解を促します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「利用者の尊厳」について、グループディスカッションを行い、理 解を深めます。</li> </ul>
②自立に向けた介護	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっ ての基本的視点について理解を深めます。</li> <li>・自立支援（自立、自律支援、持っている能力の活用、動機と欲求、 意欲を高める支援、個別性、個別ケア、重度化防止）について具体的 な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・介護予防の考え方について具体的な事例を示しながら理解を深めま す。</li> <li>・具体的な事例を複数示し、利用者・家族の要望にそのまま応える事 と、自立支援・介護予防の考え方に基づいたケアを行う事との違いや 「自立」という概念への気付きを促します。</li> </ul>
合計	9	

3 介護の基本（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性とは職種との連携	2 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護環境の特徴と理解（訪問介護と施設介護の違い、地域包括ケアの方向性）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 介護の専門性（重度化防止、遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支える為の援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、他職種から成るチーム）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 介護に関わる職種（異なる専門性を持つ他職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、医療職と連携して利用者を支える意味、専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul>
②介護職の職業倫理	1 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業倫理（専門職の倫理の意義、介護福祉士の倫理と介護福祉士制度、介護職員としての社会的責任、プライバシーの保護と尊重）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護における安全の確保（介護現場における危険と注意、事故に結びつく要因を探り対応していく技術）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 事故予防、安全対策（リスクマネジメント、事故分析の手法と視点、家族・市町村等への事故経過の報告と情報共有）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 生活支援現場で出会う典型的な事故、感染などについて具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 感染対策（感染の種類、原因と経路、感染源排除、感染経路の遮断、感染に対する正しい知識）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 感染症予防対策を踏まえた手洗い、ガウン等の着脱演習を行う。</li> </ul>
④介護職の安全	1 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職員の心身の健康管理（介護職員の健康管理、ストレスマネジメント、腰痛予防に関する知識、感染予防対策、手洗い・うがいの励行）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「介護職に起こりやすい健康障害」について、グループディスカッションを行い、理解を深めます。</li> </ul>
合計	6	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護保険制度創設の背景及び目的、動向（ケアマネジメントの意義、予防重視システムへの転換、地域包括支援センター設置、地域包括ケアシステムの推進）について具体的な資料を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 仕組みの基礎的理解（保険制度の基本的な仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定制度の手順、代表的なサービスの種類と内容、利用までの流れ）について具体的な資料を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割（財政負担、指定介護サービス事業者の指定）について具体的な資料を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 介護保険の理念などについて理解を深めます。</li> </ul>
②医療との連携とリハビリテーション	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療行為と介護（医療行為の考え方、介護職員による喀痰吸引等制度）について具体的な資料・事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 訪問看護、施設における看護と介護の役割、連携について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ リハビリテーションの理念について理解を深めます。</li> </ul>
③障害者自立支援制度（障害者総合支援法）およびその他制度（1）	2 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者福祉制度の理念（障害福祉制度の歴史、障害の概念、国際生活機能分類）について具体的な資料を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 障害者総合支援法の仕組みと基礎的理解（障害者総合支援法の概要、介護給付、訓練等給付の申請から支給決定まで、谷間のない支援）について具体的な資料を示しながら理解を深めます。</li> </ul>
③障害者自立支援制度（障害者総合支援法）およびその他制度（2）	1 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人の権利を守る制度の概要（個人情報保護法、成年後見制度の目的と内容、日常生活自立支援事業）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「個人情報保護法」や「成年後見制度」についてグループディスカッションを行い、理解を深めます。</li> </ul>
合計	9	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割（相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感的な応答など）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・コミュニケーション技法、道具を用いた言語的コミュニケーション（言語的コミュニケーションの特徴、非言語的コミュニケーションの特徴と障害を補う道具）について具体的な事例・道具を示しながら、体験を通して伝えられない要因と重要性について理解を深めます。</li> <li>・利用者、家族とのコミュニケーションの実際（利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族への労りと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難しない様にする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際（視力・聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、講音障害に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「利用者の状況に応じたコミュニケーション」について、ロールプレイを行います。</li> </ul>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録における情報の共有化（介護における記録の意義、目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画、ヒヤリハット報告書、5W1H）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・チームコミュニケーションの基本（報告、連絡、相談の必要性和意義）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・コミュニケーションを促す環境づくり（会議の目的と意義、情報共有の場、役割り認識の場、ケアカンファレンスの重要性）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「記録の書き方と作成方法」について実際に行います。</li> </ul> <p>※ 模造紙・マジック</p>
合計	6	

6 老化の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年期の発達と老化に伴う心身の変化と特徴（防御反応・反射の変化、喪失体験）について具体的な資料を示しながら、理解を深めます。</li> <li>・ 老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響（身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋、骨、関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「老年期の発達と老化に伴う心身の変化と特徴」について、グループディスカッションを行い、理解を深めます。</li> </ul>
②高齢者と健康	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の疾病と生活上の留意点（骨折、筋力低下と動き、姿勢の変化、関節痛）について具体的な資料、事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 高齢者に多い病気と生活上の留意点（生活習慣病、悪性腫瘍、循環器の病気、呼吸器の病気、消化器の病気、腎・内分泌系の病気、脳神経系の病気、筋骨格系の病気、泌尿器の病気、皮膚の病気、感染症、特定疾患などその他の病気）について具体的な資料・事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・ 老年期の鬱症状について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul>
合計	6	

7 認知症の理解(6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1 時間	《講義内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症ケアの理念（パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点、出来る事に着目する）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul>
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 時間	《講義内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理（認知症の定義、物忘れとの違い、せん妄状態、脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア等の健康管理、治療と薬物療法、認知症に使用される薬）について具体的な資料・事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul>
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2 時間	《講義内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の人の生活障害、心理と行動の特徴（認知症の中核症状、認知症の行動と心理症状、不適切なケア、生活環境の改善）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul> 《演習内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>「認知症の利用者との対応」について、ロールプレイを行い、理解を深めます。</li> </ul>
④家族への支援	1 時間	《講義内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul>
合計	6	
8 障害の理解(3時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1 時間	《講義内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>障害の概念と ICF（ICF 分類と医学的分類、ICF の考え方）について具体的な資料を示しながら理解を深めます。</li> <li>障害者福祉の基本理念（社会的支援の考え方、ノーマライゼーションの概念）について具体的な資料・事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul>

<p>②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識</p>	<p>1 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害（視覚、聴覚、平衡障害、音声、言語、咀嚼障害、肢体不自由、内部障害）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・知的障害について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・精神障害（統合失調症、気分感情障害、依存症、パニック障害、PTSD などその他の精神障害）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・発達障害（広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> <li>・高次脳機能障害について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さまざまな傷害の特徴」について、グループディスカッションを行い、理解を深めます。</li> </ul>
<p>③家族の心理、かかわり支援の理解</p>	<p>1 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の理解、受容支援、介護負担の軽減（家族のストレス、レスパイトケア）について具体的な事例を示しながら理解を深めます。</li> </ul>
<p>合計</p>	<p>3</p>	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）			
基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的な考え方	4時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、法的根拠に基づく介護について、理解を深めます。</li> </ul>
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と記憶、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響について等、人の記憶メカニズムを支援に結びつけて考えることを理解します。</li> </ul>
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体各部の名称と動きに関する基礎知識、骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、利用者の様子の普段との違いに気付く視点など、人体の構造を理解し、演習にてボディメカニクスを体験することにより理解を深めます。</li> </ul>	
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援、利用者の生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性、能動性を引き出す、多様な生活習慣と価値観の理解など、支援を行うにおいて生活歴・生活史を知ることの重要性について理解します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の日常生活の維持・向上をめざし、利用者が望む生活を実現すること、利用者の自立支援という目標に向かって行われる家事援助のポイントなどについて、グループディスカッションを行います。</li> </ul>
	⑤快適な住環境整備と介護	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な住環境に関する基礎知識、バリアフリー、高齢者や障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法、住宅改修、福祉用具貸与について理解を深めた上で、家庭内で多い事故について防止方法等を検討します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の身体状況に合わせた環境整備のポイントについて、福祉用具の活用も入れてグループ討議します。</li> </ul> <p>（介護保険制度における、福祉用具の貸与・購入について、またさまざまな福祉用具について）</p> <p>※ 福祉用具レンタル、販売、のパンフレット</p>

<p>⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整容に関する基礎知識、整容の支援技術、身体状況に合わせた衣服の選択、着脱・身支度・整容行動、洗面の意義と効果について理解を深めた上で、実技演習を行う事で、着脱介助の理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のグループに分かれて、実技演習を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>○衣類着脱の基本的手順（上着・ズボン）</li> <li>○ベッド上での衣類の着脱</li> <li>○洗顔について（顔の拭き方） <ul style="list-style-type: none"> <li>※備考 ベッド、マットレス、シーツ、ベッド柵、枕、枕カバー、パジャマ、タオル、洗面器、プラスチックグローブ</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
<p>⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動移乗に関する基礎知識、様々な移動移乗に関する用具とその活用方法、利用者と介助者にとって負担の少ない移乗移動を阻害するところとからだの要因理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援、利用者と介助者双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用、自立支援、重心・重力の動きの理解、ボディメカニクスの基本原則、移乗介助（車椅子への移乗、全介助でのベッドから車椅子への移乗、全介助での車椅子からの洋式トイレへの移乗）、移動介助（車椅子、歩行器、杖）、褥瘡予防について理解を深めた上で、実技演習を行う事で、移乗・移動介助の理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のグループに分かれて、実技演習を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>○ボディメカニクスを活用した動きの基本</li> <li>○さまざまな姿勢への体位交換</li> <li>○車いすの使い方と介助の方法</li> <li>○ベッドから車いすへの移乗</li> <li>○歩行の介助（肢体不自由者の杖歩行、視聴覚障害の歩行を含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>※備品 ベッド、マットレス、シーツ、ベッド柵、枕、枕カバー、杖、車いす、スライディングシート、視覚障害ゴーグル</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事に関する基礎知識、食事環境の整備、福祉用具・食器の活用方法と食事形態とからだの仕組み、楽しい食事を阻害するところとからだの要因理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援、食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養・脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感と満腹感、好み、時間や場所など食事環境の整備、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防などについて理解を深めた上で、実技演習を行う事で、食事介助の理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数のグループに分かれて、実技演習を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>○食事介助の方法</li> <li>○口腔ケア <ul style="list-style-type: none"> <li>※備品 バッド、マットレス、シーツ、ベッド柵、枕、枕カバー、食事用エプロン、スプーン、箸、フォーク、ストロー、とろみ、プリンコップ、歯ブラシ、スポンジブラシ、ガーグルベース、吸い飲み、プラスチックグローブ</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入浴と清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因理解と支援方法、羞恥心や遠慮への配慮、体調管理、全身清拭、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、臥床状態での陰部洗浄、手浴・足浴・洗髪について理解を深めた上で、実技演習を行う事で、全身清拭や部分浴介助の理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数のグループに分かれて、実技演習を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>○入浴介助の方法（全身・部分浴）</li> <li>○ベッド上の洗髪、清拭 <ul style="list-style-type: none"> <li>※備品 ソファーベッド、浴槽、シャワーチェア、洗髪セット、バスタオル、フェイスタオル、バケツ、ドライヤー、洗面器、ビニール袋、新聞紙、シャワーボトル、プラスチックグローブ、おむつ、パット</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因理解と支援方法、排泄の身体面・心理面での意味、社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの保護、おむつは最後の手段、オムツ使用の弊害、排泄障害が日常生活に及ぼす影響、排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担、尊厳や生きる意欲との関連、一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、便秘予防について理解を深めた上で、実技演習を行う事で、排泄介助の理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のグループに分かれて、実技演習を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>○ポータブルトイレでの排せつ介助</li> <li>○おむつ交換の方法</li> <li>○差し込み便器、尿器の扱い方 <ul style="list-style-type: none"> <li>※備品 ベッド、マットレス、シーツ、ベッド柵、枕、枕カバー、防水シーツ、P-トイレ、おむつ、新聞紙、シャワーボトル、ビニール袋、タオル、差し込み便器・尿器、プラスチックグローブ</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
<p>⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、心地よい睡眠を阻害するところとからだの要因理解と支援方法、安眠の為の介護の工夫、環境整備、安楽な姿勢と褥瘡予防について理解を深めた上で、実技演習を行う事で、ベッドメイキングや体位交換の理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のグループに分かれて、実技演習を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>○シーツ交換 <ul style="list-style-type: none"> <li>※備品 ベッド、マットレス、シーツ、ベッド柵、枕、枕カバー、防水シーツ</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
<p>⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護</p>	<p>3 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛のない死への支援、終末期ケア、高齢者の死に至る過程、臨終が近付いた時の徴候と介護、介護従事者の基本的態度、他職種間の情報共有の必要性を理解した上で、尊厳ある「死」についてや、ターミナルケアと介護職の役割について理解を深めます。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期の利用者とその家族への対応の方法と介護職の果たす役割についてグループ討議をする。</li> </ul>

生活支援技術演習	⑬介護課程の基礎的理解	2 時間	《講義内容》 ・介護課程の目的、意義、展開、介護課程とチームアプローチを理解した上で、個別援助計画の作成演習を通して、介護課程展開について理解を深めます。 《演習内容》 ・「個別援助計画の作成」の演習を行う ※ 模造紙、マジック
	⑭総合生活支援技術演習	10 時間	《講義内容》 ・高齢の 2 事例を用い、生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術習得、利用者の心身状況に合わせた介護を提供する視点の修得を、事例に基づき討議を行い、実技演習にて理解を深めます。また、一連の演習を通じて技術度合いの評価を行います。 《演習内容》 事例①：高齢（〇〇歳）、要支援 2、認知症（帰宅願望/無気力） 事例②：高齢（〇〇歳）、要支援 2、片麻痺、糖尿病、独居
実習		6 時間	ヘルパー同行（身体 3 時間、生活 3 時間） ○ 介護職員の役割や業務の実際を理解しよう ○ 利用者・家族についての理解を深めよう
合計		75	
10 振り返り（4時間）			
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法	
①振り返り	1 時間	《講義内容》 ・研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点を理解する為、研修全体の振り返りをします。	
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	3 時間	・継続的に学ぶべきこと、研修修了後における継続的な研修について、具体的なイメージが出来るような事業所などにおける事例紹介、キャリアアップに関する国の考え方、介護職員段位制度等について事例・資料を示し理解を深めます。	
合計	4		
追加 緊急時の対応（約 3 時間）			
緊急時の対応	3 時間		
全カリキュラム合計時間	130 時間		

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること